

今度は語の識別練習　日々問題（1）※「に」の識別

問 次の傍線部の「に」の文法的説明として正しいものを、後のア～キから選び、符号で答えよ。

- ① 静かに|^a思へば、よろづに過ぎに|^bにしかたの恋しさのみぞ、せんかたなき。
- ② 寄りて見るに、筒の中光りたり。

- ③ 春日の里に|^dしるよしして狩り往に|^eけり
- ④ 野山にまじりて竹を取りつゝよろづのこと

- ⑤ 道のほども知りに|^gしかば、はるかに|^h恋しく心細きことかぎりなし。

- ⑥ （旧友は）老いさらばひてあるに|ⁱや、はた死に|^jけるにや。

- ⑦ まこと選択肢に|^kさに|^l候ひけれ。もつとも愚かに|^m候ふ。

ア 完了の助動詞「ぬ」の連用形	イ 接続助詞	ウ 断定の助動詞「なり」の連用形
エ 格助詞	オ 形容動詞の一部	カ 動詞の一部

k	f	a
l	g	b
m	h	c
i	d	
j	e	

氏名年組番

k	f	a
l	g	b
m	h	c
i	d	
j	e	

今度は語の識別練習　日々問題（2）※「なり」「なむ」の識別

問 次の傍線部の「なり（る）」「なむ」の文法的説明として正しいものを、後のア～クから選び、符号で答えよ。

- ① 急ぎ参らせてご覽するに、めづらかなるちごの御かたちなり。
- ② 男もすなる日記といふものを女もしてみんむとするなり。
- ③ また聞けば、侍従の大納言の御女亡くなりたまひぬなり。
- ④ 吉野なる夏実の川の川淀に鳴ぞ鳴くなる山かけにして。
- ⑤ 死なば、一所で死なむ。
- ⑥ もし賢女あらば、それもものうとくすさまじかりなむ。
- ⑦ 若くて失せにし、いとほしく、あたらしくなむ。

選択肢

キエア
係助詞
ラ伝聞・行四段活用の助詞
ア行・一段活用の助詞
イオイ
ナ願断定・行変格活用動詞の一部
ヌ終存在の助動詞
ヌ行・終在助動詞の一部
カ力
ウ強意の助動詞
カリ活用の形容動詞+推量の助動詞の一部
キ副詞の一部

k	f	a
g	b	
h	c	
i	d	
j	e	

氏名年組番

問 次の傍線部の「ぬ」「ね」を文法的に説明せよ。

- ① あはれ、今年の秋もい **ぬ** めり。 a
- ② 潮満ち **ぬ。** 風も吹き **ぬ** べし。 b
- ③ 日かずのはやく過ぎぬるほどぞ、ものにも似 **ぬ。** c
- ④ はや舟出だして、この浦を去り **ね。** e
- ⑤ 人の心すなほなら **ね** ば、偽りなきにしもあらず。 f
- な **ば**、とく帰るべし。 d

今度は語の識別練習　日々問題（4）　※「な」の識別だけ

問 次の傍線部の「な」を文法的に説明せよ。

- ① 竜の首の玉取り得ずは、帰り来 **な**。
- ② この影を見れば、いみじう悲し **な**。
- ③ 月 **な** 見 たまひそ。
- ④ 用ありて行きたりとも、そのことはで **な** ば、とく帰るべし。

氏名 年組番

④	③	②	①

氏名 年組番

f	e	d	c	b	a

今度は語の識別練習　日々問題（5）※「らむ」「し」の識別

問 次の傍線部の「らむ」「し」の文法的説明として正しいものを、後のア～クから選び、符号で答えよ。

- ① このごろの山の紅葉は、いかにをかしか らむ
 ② あたら夜の月と花とを 同じくは こころ知れ らむ 人に見せばや
 ③ 久方の光りのどけき 春の日に しづ心なく 花の散る らむ
 ④ 聞き し^a にも過ぎて、尊くこそおは し^b けれ。
 ⑤ 時にあはず し^a て止みぬる、また多し。
 ⑥ 年ふれば 齢^{よはひ}は老いぬ しかはあれど 花を し^b 見れば 物思ひもなし

選択肢

- ア 現在推量の助動詞 イ 過去の助動詞
 カエ 完了・存続の助動詞 + 推量の助動詞 ウ 強意の副助詞
 カエ 続助詞の一部 オ 格助詞の一部
 キ 形容詞の語尾 + 推量の助動詞 ク サ行変格活用動詞の一部
 ハ 接助詞の一部

⑤	①
⑥	②
	③
	④ a
	④ b

氏名年組番